

中高生の保護者様向け ML 案内文（例）

※題名・冒頭文は、各学校にて自由に編集してご利用ください。

※メーリングリストの文字数制限がある場合、

大阪医科薬科大学病院からの案内文の後半（補足情報1，2）をカットしてご使用ください。

【題名】 学齢期の HPV ワクチン接種のご案内

【冒頭文】

平素は、本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、大阪医科薬科大学病院から、学齢期の定期接種と子宮頸がんを予防する HPV ワクチンについてのご案内が来ております。資料のデータを添付し配布いたしますので、ぜひご覧ください。

以下の文章は、大阪医科薬科大学病院からのご案内となります。

=====

女子生徒の保護者の皆様

現在、大阪医科薬科大学病院では、子宮頸がんを予防する HPV ワクチンに関する情報提供を行っています。

厚生労働省では、子宮頸がんワクチンを含む様々な予防接種の情報を提供しています。学齢期の予防接種は、乳幼児期に比べ、学業や習い事で多忙な時期であり、接種のタイミングを逃してしまうことも少なくありません。

小学校6年生～高校1年生相当の女子は、住民票のある自治体でHPVワクチンの定期接種を無料で受けられます。定期接種期間が終了しますと、任意での接種となり、約4～10万円相当の実費負担となります。「知らなかったと後悔しないほしい」という思いのもと、接種有無を決断していただけるように、医療機関から信頼できる情報を発信しています。

つきましては、以下の資料を添付しますので、ぜひご覧ください。

- ・(添付資料) 学齢期の定期接種チラシ、子宮頸がん予防 HPV チラシ（配布されるデータにより変更してください）
- ・(リンク) 厚生労働省 HPV ワクチンページ

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou28/index.html>

【問い合わせ先】 大阪医科薬科大学病院 HPV 事務局

E-mail: hpv_gmd@ompu.ac.jp

（補足情報1）

子どもたちをワクチンで予防できる病気から守るためにも、適切な時期に適切な回数を接種することはとても大切です。また、乳幼児期の予防接種でできた免疫を維持するために、学齢期の体の成長に合わせて接種することで、より高い免疫効果が期待できます。

HPV ワクチンは、15 歳以上の方だと3回の接種が必要となり、最短で約半年間かかりますので、接種を検討中の方は、遅くとも高校1年生の9月頃までに1回目の接種ができるよう計画的な接種をおすすめします。

接種を迷っている方は、HPV ワクチンの効果とリスクについて説明しているリーフレットもぜひご覧ください。

・(リンク) 厚生労働省 リーフレット (詳細版)

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000901220.pdf>

(補足情報2)

『若いから大丈夫』じゃないがん、それが子宮頸がんです。

日本では、毎年約 1.1 万人が子宮頸がんにかかり、約 2,900 人がなくなっています。20 代・30 代の若い世代で急増するのが特徴です。30 代までに治療の過程で子宮を失う人も年間約 1,000 人いると考えられており、手術や後遺症でライフプランが大きく変わってしまう可能性があります。子宮頸がんは、毎年多くの若い女性から「いのち」と「未来」を奪っています。

日本産科婦人科学会の推定によると、すべての女性のうち、50～80%が生涯で HPV に感染するとみられます。男性も同様で、性交経験のある人のほとんどが感染すると考えられています。HPV はそれくらい「ありふれたウイルス」で、普通の生活の中で感染するウイルスです。子宮頸がんは決して、性に奔放な人だけがなるがんではありません。

子宮頸がんの予防には、ワクチン接種 (HPV ワクチン) が有効です。

現在、公費で接種できる HPV ワクチンでは、子宮頸がんを 50～90%予防できるといわれています。接種するか迷っているうちに、無料で受けられる期間が終わってしまわないよう、接種有無の決断の一助になれば幸いです。